

デュポン™ ベンゾマーク® SC

農林水産省登録第 23556 号



日本曹達株式会社農業化学品事業部普及部

はじめに

米国デュポン社で開発されたシアントラニプロール（通称：サイアジピル®）は、世界で二番目のアントラニリックジアミド系殺虫剤です。日本では2008年からXI-0701SCとして葉菜、果菜等の害虫に対して委託試験を実施し、2012年1月に登録申請のち、2014年10月に登録を取得しました。

有効成分と製剤

有効成分 シアントラニプロール 18.7%
性 状 類白色水和性粘稠懸濁液体
剤 型 フロアブル

安全性

皮膚刺激性 刺激性なし
眼刺激性 軽度な眼刺激性あり
感 作 性 皮膚感作性 感作性なし
急性経口毒性 LD₅₀ (ラット): >5,000mg /kg
急性経皮毒性 LD₅₀ (ラット): >5,000mg /kg
急性吸入毒性 《シアントラニプロールのデータ》
LD₅₀ (ラット): >5.2mg /L (4hr)

環境影響情報

長期継続的影響により藻類・ミジンコに強い毒性
急性魚毒性 LC₅₀(コイ): 280mg /L (96hr)
ミジンコ遊泳阻害毒性 EC₅₀: 0.0724mg /L (48hr)
藻類生長阻害毒性 EbC₅₀ (*Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻)): >66.3mg /L (0-72hr)

その他急性毒性

経口

(ミツバチ): >0.1055 μg /bee (48hr (シアントラニプロールのデータ))

接触

(ミツバチ): >0.0934 μg /bee (72hr (シアントラニプロールのデータ))

特長 (本誌P.16 ~21 も合わせて参照ください)

本剤は低い薬量で咀嚼性害虫（チョウ目、ハエ目）のみならず吸汁性昆虫（カメムシ目、アザミウマ目）等の広範囲な害虫に卓効を示す一方、天敵や有用昆虫には影響の少ない殺虫剤です。

また、適用作物に対しては高い安全性を示します。さらに、害虫の効果発現が早いことから害虫により媒介されるある種の病害の伝播を減少させる効果も期待され、新たな害虫防除体系の確立に貢献できると確信しております。以下に特長をまとめて記載します。

1. 幅広い殺虫スペクトラム (クロススペクトラム*)

ハスモンヨトウ、オオタバコガ、コナガ等のチョウ目害虫および、コナジラミ、アブラムシ、ネギアザミウマ、ナモグリバエ等の広範囲な害虫に卓効を示します。

*広い範囲の害虫に有効な一方で、有用な天敵等に対して悪影響が小さい作用性を、デュポン社はクロススペクトラムと定義しました。

2. 速やかな摂食活動阻害による作物保護

主に害虫の摂食により薬剤が虫体内に取り込まれ、速やかに摂食活動を停止させます。

また、これにより害虫が媒介する、ある種の病害の伝播を減少させる等の効果も期待できます。

3. 根からの吸収移行性と長い残効性

本剤を灌注処理すると薬剤は根から吸収されて作物の導管を通して地上部に移行します。この作用により処理後3～4週間の残効を示します。

4. 抵抗性害虫に優れた効果

異なる作用機構の薬剤抵抗性害虫にも高い効果を示します。

5. 適用作物に対する高い安全性

灌注処理に適した製剤となっているため適用作物に対して高い安全性が確認されています。これまでの委託試験では、薬害の事例はありません。

6. 天敵、訪花昆虫、周辺環境に対する高い安全性

天敵、訪花昆虫への安全性が高く、IPMプログラムに組み込むことが可能です。

また灌注処理なのでドリフトや使用者への薬剤被爆も少なくすることができます。

上手な使い方（セルトレイ／ポットでの灌注処理）

ベリマーク®のセルトレイ／ポット灌注は、定植前の手軽な作業で薬剤処理ができ、本圃で約3～4週間の殺虫効果が期待できる効率の良い新技術です。

◆灌注処理の仕組み

灌注処理とは、セルトレイ／ポットの培土に処理された薬液が作物の根から吸収されることにより、有効成分が作物全体に行き渡り効果を発揮する処理方法です。茎葉散布とは違い、薬液が土にしっかり吸収され根まで行き渡ることが大切です。様々の異なった環境下でも初期からのより安定した防除効果が期待できます。

また、葉に薬液が付着する心配はないので、展着剤の必要はありません。



* アルカリ分解の注意

本剤はアルカリ性で有効成分が分解することがあります。特にpH9以上になる混用や、アルカリ性資材との併用、強度のアルカリ性土壌での使用は避けてください（効果の安定）。

■適用害虫と使用方法

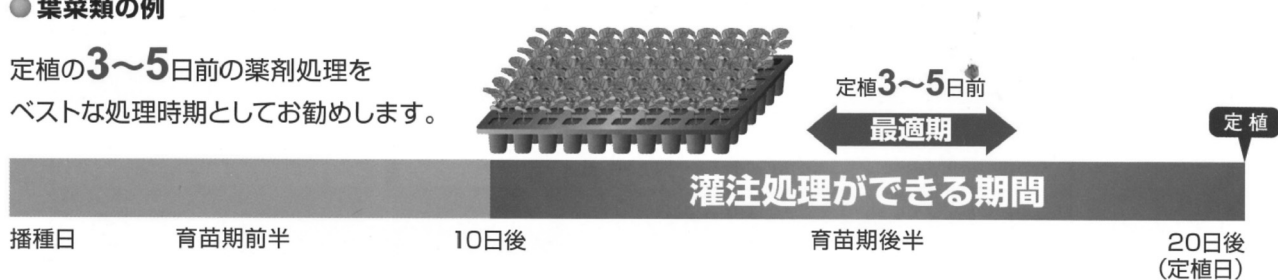
2014年10月3日現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリブロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	ハスモンヨトウ ネギアザミウマ アブラムシ類	400倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはベーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5～4ℓ) 当り0.5ℓ	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の散布は 3回以内)
はくさい	アブラムシ類						
ブロッコリー	コナガ アオムシ ネギアザミウマ						
レタス	オオタバコガ ナモグリバエ						
なす	アブラムシ類		1株当り25mℓ				
トマト きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類						

◆ 灌注処理のタイミング

● 葉菜類の例

定植の**3～5**日前の薬剤処理を
ベストな処理時期としてお勧めします。



● 果菜類の例

定植の**5～7**日前の薬剤処理を
ベストな処理時期としてお勧めします。



- 早めに処理することで、定植前後の農作業にゆとりが持てます。
- 葉が繁茂する前に処理することで薬液が土壌に行き渡り、また果菜類では作業時の苗の損傷のリスクを軽減できます。
- 今までの委託試験で薬害の事例はありませんので、早めの処理をお勧めします。

おわりに

デュボンTMベリマークSCは従来にない優れた特長を持った防除剤です。本剤の特長をご理解いただき、体系防除の1剤として有効に使用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本剤の開発にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。本剤の使用に関しまして、引き続きご指導を賜りたく宜しくお願い申し上げます。